

## 太白区郡山地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 2 月 14 日掲載)

郡山地区民児協は、仙台市南部に位置する太白区の東部を受け持ち区域としています。広瀬川や名取川、東北新幹線に囲まれた当地区は交通の要所でもあり、新たな住宅や市営住宅、マンションが多く、仙台市の副都心として開発が進められている地域です。東日本大震災により仮設住宅（あすと長町応急仮設住宅）が建設され、約 230 世帯の被災者の方が入居されています。さらに、郡山地区には民間借上住宅に入居されている方も多く、現在被災者支援が大きな活動の 1 つとなっております。

私たちは、行政や連合町内会、地区社会福祉協議会、地域包括支援センターなどと連携し、地域の福祉ネットワークの中で、被災者の方一人ひとりの見守り活動を進めています。具体的には、行政から仮設住宅に住む高齢者等の情報を得て、平成 23 年 12 月より仮設住宅の入居の方々（一人暮らしの方や高齢者夫婦世帯）を対象とした訪問活動を始めました。通常の民生委員・児童委員活動に加えて、平成 24 年度からは毎月 1 回、ほとんどの委員が参加し、仮設住宅を訪問し、見守り活動を続けています。



毎月の訪問のほかにも、仮設住宅内の自治会婦人部による芋煮会行事に参加したり（鍋やバーナー、プロパン等を用意し、仙台曲がりねぎ、バナナを提供）、自治会による防災訓練や花壇づくりに協力する等、同仮設住宅住民の方々との交流も欠かさずに行なっています。また、東京都にお住まいの高齢者の方から「手作りの品物を贈りたい」ということでいただいた座布団を仮設住宅にお住まいの一人暮らし高齢者の方に配布しました。温かい気持ちをお届けすることにより仮設住宅の住民の方から大変喜んでいただきました。

私たち郡山民児協は、日常活動に加え、仮設住宅の訪問活動や行事などに積極的に参加していますが、今後も、あすと仮設住宅や民間借上げ住宅にお住まいの方々だけでなく、地域内で被災された方々も含めて、1 日でも早く日常生活を取り戻すことができるように活動を続けていきたいと考えています。



手作り座布団配布の様子